

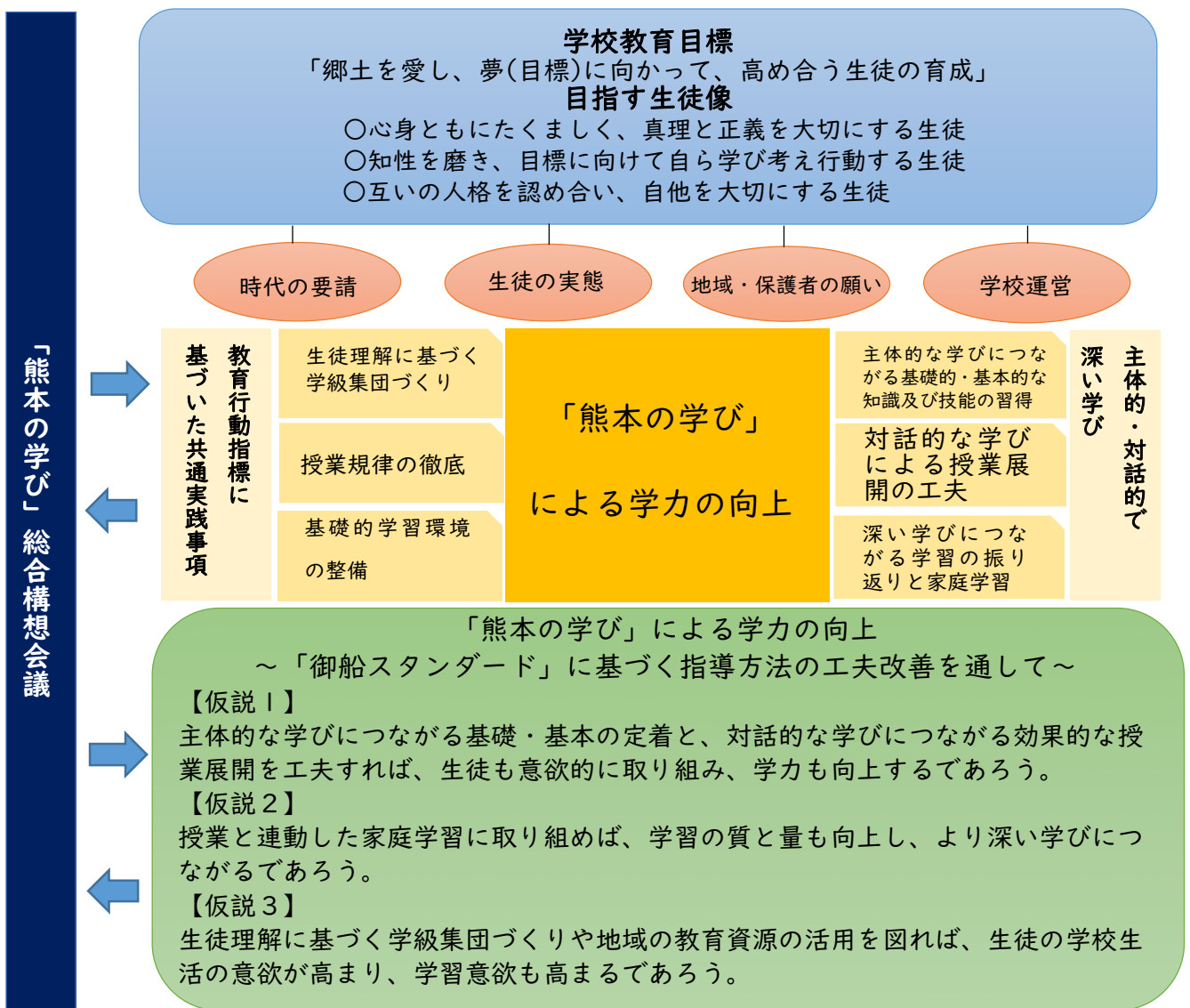
御船町立御船中学校 公開授業

研究主題

「熊本の学び」による学力の向上 ～「御船スタンダード」に基づく指導方法の工夫改善を通して～

御船中学校では、熊本県教育委員会の研究指定校として『熊本の学び』による学力の向上～御船スタンダードに基づく指導方法の工夫改善を通して～を研究主題に定め、研究を重ねてきました。今後の「熊本の学び」を展望し、また主体的・対話的で深い学びの実現を目指して思考スキル・思考ツールを用いた授業づくりや、ユニバーサルデザインの視点から作成した御船スタンダードに基づいた指導など、これまでの研究を深化させながら新学習指導要領の実施に向けて全職員で研究を進めているところです。本日、これまで取り組んできた内容をささやかに発表させていただきます。研究は始まったばかりであり、成果が現れたと言える段階ではありませんが、今後も指導方法の工夫改善を通して授業の質を高め、確かな学力の向上につなげていきたいと考えています。本日は、忌憚のない御意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

1 研究の構想



2 研究の実際

(1) 御船スタンダードの共通実践

本校では、昨年度より日頃の教育活動における共通実践事項(御船スタンダード)を決め、教育実践の基盤としている。今年度は授業に関する御船スタンダードを更に深化・統合し、以下の項目に絞って日々の授業を行っている。1学期に全職員で互いの授業を参観し、共通実践事項の実践状況を確認・評価(4段階)する取組を行った。

	実践項目	評価
①	黙想とともに服装を正させ、全員の出席を把握しているか。	3. 5
②	座席を整然と並ばせ、必要な学習用具が机に出ていることを把握しているか。	3. 5
③	授業の流れや時間をメニューボードで提示しているか。	3. 7
④	めあてとまとめを提示しているか。	3. 7
⑤	発問を絞り、不規則発言を減らす工夫をしているか。	3. 5
⑥	主発問で本時の目標に迫っているか。	3. 2
⑦	座席の工夫などを行い、学び合いの場面を設定しているか。	3. 3
⑧	教え合いや学び合いで学習内容を共有できているか。	3. 4
⑨	練習問題や適用問題で学習内容の定着を図っているか。	3. 5
⑩	めあてとまとめを対応させ、本時の振り返りができているか。	3. 2

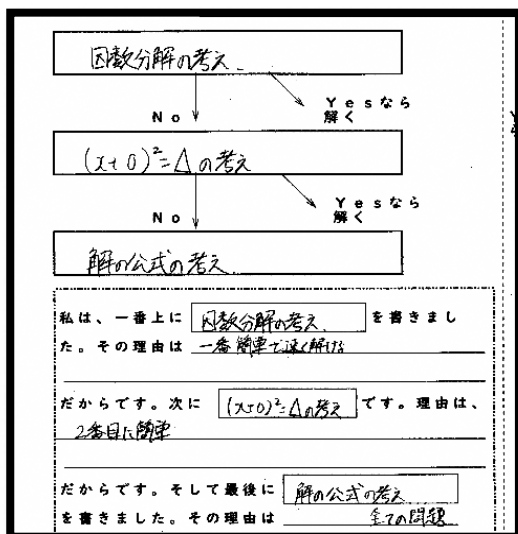


メニューボードの例

③や④は高い値を示しているものの、⑥や⑩に関しては更に研究や取組を深めていく必要があることが分かった。

(2) 思考スキルと思考ツールを用いた授業

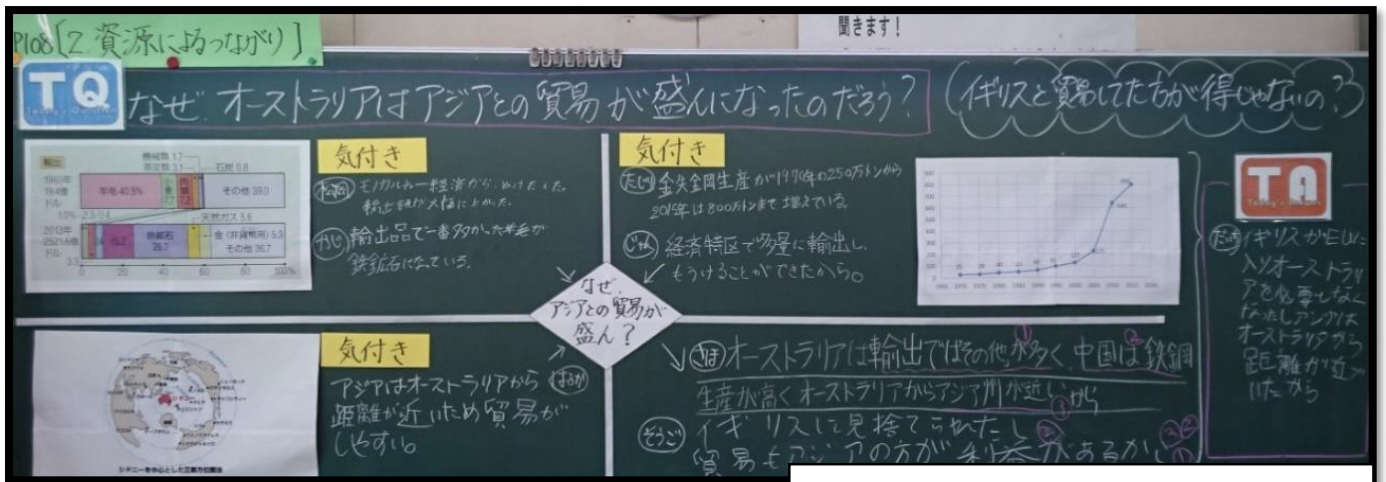
授業の中で思考スキルを用いることにより、生徒の思考の手がかりを明確にすることができる。また、そのスキルに最も適した思考ツールを用いることで、頭の中のイメージやつながりを視覚化して整理することができる。生徒の思考の流れを「可視化」することで学び合いを促進し、「主体的・対話的で深い学び」へつなげると考え、研究を進めているところである。



思考ツール(フローチャート)を使ったワークシート



思考の流れを可視化し、発表する生徒



思考ツールを活用した板書例(1年・社会科)

(3) 単元を見通した指導計画の構想

学びの質を高め、深い学びを実現するために単元のまとまりを見通して「習得・活用・探究」の学習過程を設定し、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら「深い学び」の実現を図るようにしている。そこで本校では、単元を見通した習得・活用・探究の学習過程の設定と、授業で使う思考スキル、思考ツールの効果的な活用に取り組んでいる。

授業構想シート(3年・数学)

主体的・対話的で深い学びにつながる授業の創造 ~思考スキル・思考ツールを使った授業~

記入例1

① 実施単元 : いろいろな2次方程式(11時間扱い)

② 単元の計画(単元デザイン)

次	時数	主な学習内容	学びの過程のイメージ
1	2	2次方程式の解とその意味	習得(知識)
2	3	平方根を使った解き方	(技能)
3	2	2次方程式の解の公式	(技能)
4	1	因数分解による解き方	(技能)
5	1(本時)	いろいろな2次方程式の解き方	活用・探究(思考・判断)
6	2	適用問題	活用・探究(思考・定着)

*単元デザインのイメージに関しては、別紙で資料を付けています。そちらもご活用下さい。

③ 実施時期 : 9月20日ごろ

④ 本時で使う思考スキル(どれかに丸を付ける 複数回答可)

ア 比較する	イ 順序立てる	ウ 理由付ける	エ 構造化する
オ 筋立てる	カ 変化を捉える	キ 推論する	ク 関連付ける
ケ 分類する	コ 応用する	サ 多面的に見る	シ 見通す
セ その他()	ソ 序列を付ける		

⑤ 思考スキルを使うねらいや意図
様々な2次方程式を解くときに、どの解法から解いた方がより効率よく解を導くことができるか、比較したり序列を付けさせたりしたい。
また、序列の付け方を思考ツールを使って視覚化し、生徒が共有できるようにしたい。

⑥ 予想される(教師の意図する)思考ツール:ステップチャートツールとして活用した

*手書きでかまいません

因数分解を使った解き方

↓

平方完成を使った解き方

↓

解の公式を使った解き方

因数分解 平方完成

↓ ↓

解の公式を使った解き方

単元を見通した学びの過程を設定する。必要な場合にはフィードバックして深い学びへとつなげる。

授業で使う思考スキルと思考ツールを明示

思考ツールを使った話し合いの場面



(4) SGE(構成的グループエンカウンター)やSST(ソーシャルスキルトレーニング)を取り入れた学級集団づくりと生徒理解

授業づくりの基盤として、学級集団づくりと個々に付けるべき力を意識したコミュニケーション力の育成が必要不可欠であると考え、以下の表のように各学年で学級活動を実施している。Q Uアンケートの結果分析をもとに個に付けるべき力を意識し、これらの活動を計画的に取り入れることで学級内の生徒が互いに交流し、相手のことを理解できるようにするとともに、対人関係を円滑に運ぶ力を育て、学級内の信頼関係を深めることができる。

実施時期	内容
9月 6日(木)	〇〇が好きな〇〇です
10月10日(水)	ねえ、どっちがいい?
11月 9日(金)	その気持ち分かるよ
12月 5日(水)	ポジティブしりとり
1月 9日(水)	ほんとうに欲しいもの
2月18日(月)	心を合わせて!
3月12日(月)	〇年△組の思い出



SGEに取り組んでいる生徒の姿

3 成果と課題

全国学力・学習状況調査(H30.4.17)の生徒質問紙調査の結果は以下の通りである。

内容	本校	熊本県	全国
先生は良いところを認めてくれる	33.3	26.8	32.5
人の役に立つ人間になりたい	74.6	71.3	70.7
数学の授業がよく分かる	28.9	20.8	28.2
数学の授業で問題の解き方が分かるようにノートに書いている	49.1	41.1	45.6
理科の勉強は好き	35.1	28.1	30.0
理科の授業で自分の考えや考察を周りの人に説明したり発表したりしている	14.0	10.1	13.1

○このことから、教師に認められていると考える生徒が多く、生徒との信頼関係づくりが進んでいることが分かる。また、数学・理科への学習意欲も高く、ノートの活用や授業での発表も高い数値を示している。

内容	本校	熊本県	全国
自分に良いところはありますか	24.6	30.1	33.7
家で学校の宿題をしていますか	47.4	67.3	68.5
家で授業の予習・復習をしていますか	7.9	13.0	18.2
解答時間は十分でしたか(数学A)	46.5	57.0	58.3

○自己肯定感が低い生徒が多いので、教科や学級活動等におけるSGE等の取組を進め、自己肯定感を高める必要がある。

○大きな課題として挙げられるのは家庭学習である。家庭での宿題への取組状況は、県や全国の数値から大きな開きが見られる。このことに関しては、家庭学習と授業を連動させる取組を工夫するとともに、学びに向かう姿勢や保護者・地域との連携も視野に入れて取り組んでいきたいと考えている。